授業科目(ナンバリング)	**日本語教育実習(CB401)**			担当教員	山内美穂・佐野　香織・東出　朋		
展開方法	実習	単位数	2単位	開講年次・時期	4年・集中	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
4年次生を対象とした科目であり、日本語教員養成課程受講生にとっては総仕上げの科目である。 日本語教育実習は、日本語教員としての専門的な知識や技能さらには資質を、日本語教育現場から学び取るために必須となる。そのため日本語直接教授法について習熟しておかなくてはならない。日本語教員は日本文化の伝達者でもあり、日本情報の発信者でもある。日本語学習者は日本のことを知りたいから日本語を学んでいるということを肝に銘じておくことが肝要である。							⑪

ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
専門力	授業を目的・学習項目にそって、適切な時間配分で実施できる。	教案・研究授業	45%
情報収集、分析力	日本語の語彙・文法・教授法について適切な説明ができ、発表できる。	実習日誌の記録	25%
コミュニケーション力			
協働・課題解決力			
多様性理解力	外国人への日本語教育に積極的に取り組むことができる。	報告会時の報告	30%
出　　席		受験要件	
合　　計		100%	

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

教案・研究授業で45%、実習日誌の記録で25%、報告会の発表を30%で評価する。

授　業　の　概　要

本学または近隣の日本語学校、海外の大学などで日本語指導の実習を行う。実習に臨んで、次の点にはとくに留意する必要がある。

・実習先の日本語教育機関の担当教員の指示に従い、実習先の先生方との円滑な人間関係の構築に努める。
・日本語学習者と日本語教員という関係性に留意する。
・教員たるに相応しい態度を保持するよう努める。
・教材研究は入念に行い、しっかりした内容の教案を書き、明快な指導を心がける。
・日本語教育実習日誌の記入は、その日のうちに行う

実習先によっては、交通費・滞在費用等の必要経費が発生するが、それらは履修者の負担となる。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分である。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。

参考書：『日本語教育ハンドブック』大修館書店

指定図書：『日本語教育ハンドブック』大修館書店

授業外における学修及び学生に期待すること

日本語教員になるという明確な意識をもって実習に臨むことが、最も必要である。
・欠席(欠勤)は許されないので、健康管理には十分留意すること。
・言動や態度、服装には気を配っておくこと。
・実習は真剣勝負の場だということを忘れず、しっかりとした教案を書き、授業に臨むこと。
総じて、誠実であることが強く要求されると心得ておくこと。